

三宅 高等学校 令和7年度（1学年用）教科

国語 科目 現代の国語

教科：国語

科目：現代の国語

単位数：2 単位

対象学年組：第 1 学年 NK 組～ F 組

教科担当者：（ NK・F組：廣見）

使用教科書：（ 精選 現代の国語（東京書籍） ）

教科 国語

の目標：

【知識及び技能】実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする

【思考力、判断力、表現力等】論理的に考える力を伸ばし、伝え合う力を高め、考えを広げたり深めたりすることができる

【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 現代の国語

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・ 聞	書	読					
1 学 期	自己と他者「屈く言葉」「話す、聞く一わかりやすい説明」	評論の読み方のポイントを押さえる。評論で論じられている内容の理解を深めるために現代の問題に関心を持ち、自分自身のこととして積極的に向き合う姿勢を養う。（評論の読み方）	○			「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。「話すこと・聞くこと」で、自分の立場や考えを明確にし、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。	○	○	○	14
	定期考査			○			○	○		1
	認識を深める「水の東西」「水」を巡る日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。 書く 発想を広げて課題を見つける。	「鹿おどし」の具体的な動きと、「鹿おどし」を見て筆者が感じ取ったことを表現に即して読み取る。新聞記事をもとに問いを作り、意見をまとめる		○		「読むこと」において、目的に応じて、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。「話すこと・聞くこと」において、自分の考えが的確に伝わるよう、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。	○	○	○	14
	定期考査				○		○	○		1
2 学 期	言葉と社会、「まちの豊かさとは何か」「本を紹介する」「豊かさ」とは何かについて書かれた評論を読み、その考え方の違いについて理解を深める。 本の紹介、話の構成や、紹介の仕方を工夫して話す。	評論の読み方を押さえる。評論で論じられている内容の理解を深めるために現代の問題に関心を持ち、積極的に向き合う姿勢を養う。（評論の読み方） 選んだ本を班の中で紹介し合い、班として紹介する本を決める。	○			「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。「話すこと・聞くこと」において、話し言葉の特徴を踏まえ、相手の理解が得られるように表現を工夫している。	○	○	○	14
	定期考査				○		○	○		1
	言葉と社会・時間と自由 時間と自由の関係についての筆者の主張を的確に読み取り、必要に応じてその内容を要約する。 グラフや写真の読み取り方	評論で論じられている内容の理解を深めるために現代の問題に関心を持ち、自分自身のこととして積極的に向き合う姿勢を養う。（評論の読み方） 資料の読み手や目的に応じて、内容や全体の構成を考えて、説明資料にまとめる。		○		「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 積極的に説明資料の作成に必要な情報を収集、整理し、学習課題に沿って伝える相手や目的を意識した説明資料を作成しようとしている。	○	○	○	14
	定期考査				○		○	○		1
3 学 期	「自立」の在り方について考察する 評論を読み、自分の考えを持ち、視野を広げる。 紹介されている体験談を踏まえて、「能力」に関する筆者の考えを読み取る。 異なる主張の文章を読み比べて自分の意見を書く	筆者の主張する「自立」について、現代社会で混同して使われている「独立」という言葉との違いも踏まえて読み取り、まとめる。 現代人の時間の在り方について、筆者がどのように捉えているのかを説明する。 「読書について書かれた文章」A～Cを読み比べて意見文をまとめた例を参考に、自分の意見を書く方法を理解する。			○	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 積極的にテーマに沿った本を探し、学習の見通しをもって異なる主張の文章を読み比べ、自分の考えが読み手に伝わるように意見文としてまとめようとしている。	○	○	○	5
	共に生きる 世界を広げる 人間の在り方について考察する評論を読み、自分の考えを持ち、視野を広げる。 書く 論証してレポートを書く 発表の仕方や、話の聞き方を工夫する。	「『自らの人生を生きる』」について筆者の考えを他の作品の著者の考えとの対比を踏まえて理解し、まとめる。 「学習の流れ」を読み、活動のポイントの見通しを持つ。レポートの種類を理解し、論証型レポートを書いた例を参考に、レポートの書き方を確認する。			○	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。 「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。 調査内容をパワーポイントなどにまとめ、資料を作成する。その際、伝えたいことを明確に表現できるよう、タイトルの付け方や、図表の配置などを工夫する。	○	○	○	5
	定期考査			○			○	○		合計
	定期考査			○			○	○		70

年間授業計画

三宅 高等学校 令和7年度（1学年用）教科 国語 科目 言語文化

教 科： 国語 科 目： 言語文化 単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 N K組 F 組

教科担当者：（N組：坂田） （K組：坂田） （F組：坂田） （組： ） （組： ） （組： ）

使用教科書：（言語文化（大修館））

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 言語文化 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			語 文	読 書	説 話					
1 学 期	言語と文化の関係について理解を深める	世界を見わたす窓／文字の深秘 宇治拾遺物語 田舎の児、桜の散るを見て泣くこと			○	【知識・技能】 言葉と文化の間に深い関連があるということについて理解している。 古典の世界に親しむために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 古典の説話と現代の様々な文化とのつながりを理解しようとしている。	○	○	○	9
	自然へのまなざし	をりふしの移り変はこそ／神無月のころ			○	【知識・技能】 文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思考力・判断力・表現力】 「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、表現したいことを明確にしている。「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 進んで文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、作品ごとの自然観を理解しようとしている。	○	○	○	5
	定期考査						○	○		1
	説話文学について	児のそら寝／絵仏師良秀／阿蘇の史、盗人にあひてのがること／			○	【知識・技能】 古典の世界に親しむために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品を読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 古典の説話と現代の様々な文化とのつながりを理解しようとしている。	○	○	○	9
	自然へのまなざし2	九月ばかり／雪のいと高う降りたるを／春はあけぼの			○	【知識・技能】 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思考力・判断力・表現力】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 進んで文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、作品ごとの自然観を理解しようとしている。	○	○	○	5
	定期考査						○	○		1

2 学 期	言葉の紡ぐ世界	羅生門／今昔物語集／小説の構造／翻案の世界			○	【知識・技能】 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。 【思考力・判断力・表現力】 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・言葉がもつ価値への認識を深め、言葉をとらえて他者や社会に意欲的に関わろうとしている。	○	○	○	9
	漢文に親しむ	私たちと漢文／訓読のきまり／論語			○	【知識・技能】 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思考力・判断力・表現力】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述をもとに的確にとらえている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・漢文訓読のきまりを理解しようとしている。	○	○	○	5
	定期考査						○	○		1
	現代に生きる言葉	蛇足／完璧／鶏鳴狗盗／臥薪嘗胆			○	【知識・技能】 古典を読むために必要きまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思考力・判断力・表現力】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述をもとに的確にとらえている。 【主体的に学習に取り組む態度】 故事成語の内容や文化的背景に興味を持ち、学習したことを普段の生活の中に生かそうとする	○	○	○	9
3 学 期	寓話について	黔之驢／良識派			○	【知識・技能】 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思考力・判断力・表現力】 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開などについて叙述をもとに的確にとらえている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・作品に興味をもち、論理の展開や作者の主張を読み取ろうとしている。	○	○	○	5
	定期考査						○	○		1
	詩歌について	短歌十五首／万葉集・古今和歌集・新古今和歌集／サーカス／昨夜思／春望			○	【知識・技能】 我が国の言語文化に特徴的な語句の文化的背景について理解を深め、文書の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 【思考・判断・表現】 「書くこと」において、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈すること。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉がもつ価値への認識を深め、言葉をとらえて他者や社会に意欲的に関わろうとしている。	○	○	○	9
	定期考査						○	○		1
										合計
										70

三宅高等学校 令和7年度（1学年用）教科 地理歴史 科目 地理総合

單位數： 2 單位

使用教科書：（地理総合（東京書籍）、新詳高等地図（帝国書院））

の目標：

【学びに向かう力、人間性等】地理や歴史について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
地理に関する諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	地理に関する事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、効果的に説明したり、議論したりする力を養う。	地理に関する諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養うとともに、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする態度を育てる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	○緯度・経度の違いが、私たちの生活にどのような影響を与えているのか理解する。 ○地球儀と世界地図の違いを理解し、用途に応じて適切に利用できるようにする。 ○日本の位置と領域を理解する。	私たちが暮らす世界 1 緯度・経度 2 地球儀と世界地図 3 日本の位置と領域	・世界地図や地球儀での表現方法ならびに日本の位置や領域についての基本的な事柄を理解し、その知識を身につけている。 ・地球上の位置に関する事柄について多角的・多面的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・地球上の位置に関する事柄に対する関心と課題意識を高めている。	○	○	○	6
	○さまざまな地図があることを理解し、地図利用の可能性を考える。 ○主題図の表現方法の特徴を理解し、用途に応じてどのように使い分けられるかを考察する。	地図や地理情報システムの役割 4 地図の種類 5 地形図のルール 6 主題図の種類と読み取り 7 地理情報システムと地図	・地図についての基本的な事柄を理解し、その知識を身につけている。 ・様々な地図について、縮尺・媒体・用途などに着目し、適切に整理している。 ・紙の地図やGISに対する関心を高め、閲覧や作業を通して、それらの特徴をとらえようとしている。	○	○	○	5
	定期考査			○	○		1
	○交通・通信技術の発達により人やモノ、情報が国境をこえてやり取りをされるようになったことについて、適切に理解する。 ○国境をこえた経済活動や政治的なつながりが、人・モノ・情報などのやり取りに大きく影響を及ぼしていることに着目し、現代世界におけるグローバル化の進展について課題意識をもって考察する。	資料から読み取る現代世界 8 交通の発達 9 情報通信の発達 10 国境をこえる人々の移動 11 拡大する貿易 12 つながる世界、多極化する世界	・交通・通信の利用・整備の状況や国境をこえた人・モノ・情報の移動、世界の国家群などについて、地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択肢で、読み取ったり図表などにまとめている。 ・グローバル化の進む現代世界において、政治的・経済的な国家間の結びつきが強まっていることに対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求しようとしている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
2 学期	○世界には多様な文化が存在すること、近年それが均一化する傾向にあることを理解する。 ○地形や気候が地域によってどのように異なるのか、それらが人々の生活にどのように影響を与えてきたかを考察する。	人々の生活文化と多様な地理的環境 1 生活文化の多様性と国際理解 2 生活文化と自然環境 3 生活文化と産業	・世界にみられる多様な文化について、基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。 ・技術の発展やグローバル化などによってどのように産業が発展・変容してきたかについて、関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
	○地球環境問題の背景と影響を理解し、解決策を考察する。 ○さまざまな資源・エネルギーの特徴を理解し、生産や消費のあり方を考える。 ○地球規模で取り組むべき課題の内容や特徴を確認し、解決や改善に向けた取り組みを考える。	さまざまな地球的課題と国際協力 1 地球環境問題 2 資源・エネルギー問題 3 人口問題 4 食糧問題 5 居住・都市問題 6 民族問題 7 持続可能な社会の実現をめざして	・さまざまな要因がからむ地球的な課題についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 ・地球的な課題について、地域性や歴史的背景、日常生活との関連や国際社会の変化をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・各国の社会状況にあった具体的な解決が求められる地球的な課題に対する関心を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
3 学期	○日本列島の自然環境の特徴について世界的な視点からとらえるとともに、地形と気候の両面から理解する。 ○日本列島の自然環境の特徴と各地域において発生する自然災害との関係性について、世界的な視点から考察する。	自然環境と防災 1 日本の自然環境の特色 2 さまざまな自然災害と防災	・変化に富んだ日本列島の自然環境、大きな被害をもたらす自然災害について、基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。 ・日本列島の地形や気候と自然災害について、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○	○	○	10
	○地域調査の手順や具体的な手法を理解し、身近な地域において地域調査を実践する。	生活圏の調査と地域の展望	・地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択肢で、読み取ったり図表にまとめている。 ・身近な地域の特徴を、設定したテーマに沿ってとらえ、明らかになったことを適切に表現している。	○	○	○	5
	定期考査			○	○		1
				○	○		1
							合計
							70

高等学校 令和7年度（1学年用）教科		地理歴史		科目 歴史総合	
教科： 地理歴史	科目： 歴史総合	単位数：	2	単位	
対象学年組： 第 1 学年	組～ 組				
教科担当者：（F組：石川）	（NK組：石川）	（組：	）	（組：	）
使用教科書：（歴史総合（実教出版）					

の目標：

【思考力、判断力、表現力等】地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する。

【学びに向かう力、人間性等】地理や歴史について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその他の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	・17世紀から始まり18世紀から19世紀にかけての日本が4つの口を通して周辺地域との関係に着目して、18世紀とその前後の日本における経済活動の特徴、清などのアジア諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。	近代化への胎動 ○江戸時代の日本と東アジア秩序の変動 ○江戸時代の生産・流通と諸改革 ○幕政の改革と東アジア世界	・交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務などに関する資料から情報を読みとったり、まとめたりする技能を身につけている。 ・交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務などに関する資料を活用して、近代化にともなう生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。	○	○	○	3
	・18世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸、オスマン帝国の政治に影響などに着目して、18世紀とその前後の世界全体の経済活動の特徴、ヨーロッパ各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係、江戸幕府が崩壊していく関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。	欧米の市民革命と「西洋の衝撃」 ○イギリス産業革命とアメリカ独立戦争 ○フランス革命とウィーン体制 ○アメリカ合衆国の発展とラテンアメリカの独立 ○オスマン帝国の衰退とロシア ○アヘン戦争の衝撃と日本の開国等	・18世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸、オスマン帝国のできごとや影響などに着目して、主題を設定し、世界各地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸、東アジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	9
	定期考査			○	○		1
	・19世紀後半の欧米諸国の動向が日本に与えた影響などに着目して、19世紀後半の日本における経済活動の特徴、日本と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。	欧米諸国と日本の国民国家形成 ○イギリス・フランスの繁栄とイタリア・ドイツの統一 ○明治政府の諸改革 ○日本のアジア外交と国境問題 ○自由民権運動と大日本帝国憲法	・19世紀後半のヨーロッパの動きと日本との関連に関わる諸事象について、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	○	○	○	5
	・19世紀から20世紀初頭にかけての欧米諸国の帝国主義の動き、日本と東アジアの関係、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の進出などを基に、19世紀から20世紀初頭にかけてのアジアの政治と社会を理解している。	帝国主義の時代 ○帝国主義の時代へ ○朝鮮をめぐる国際関係と日清戦争 ○日清戦争後の東アジア ○日露戦争と東アジアの変動	・19世紀から20世紀初頭にかけての欧米諸国の帝国主義が世界に与えた影響などに着目して、19世紀から20世紀初頭の日本における政治の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	7
定期考査			○	○		1	
2 学 期	・第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。	第一次世界大戦と大衆社会 ○第一次世界大戦 ○ロシア革命とソ連の成立 ○米騒動とデモクラシー ○ヴェルサイユ体制とワシントン体制 ○アジアの民族運動	・第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	・第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。	経済危機と第二次世界大戦 ○世界恐慌と各国の対応 ○ファシズムの時代 ○満州事変と軍部の台頭 ○日中戦争と戦時体制 ○第二次世界大戦の勃発 ○第二次世界大戦の終結 等	・第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	12
定期考査			○	○		1	
3 学 期	・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治、冷戦下、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解する。	冷戦と脱植民地化 ○植民地の独立 ○米ソ両陣営の動揺 ○日本の国際社会復帰と高度経済成長	・地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	4
	・石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解する。	多極化する世界 ○石油危機と世界経済 ○緊張緩和から冷戦の終息へ ○日本の経済大国化	・アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○	6
	・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。	グローバル化と現代世界 ○地域紛争と対立 ○国際秩序の変容	・21世紀に入って日本と世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度をもっている。 ・歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解している。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
							合計
							70

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	集合の考え方を理解し、集合で使われる記号を正しく使い、効率よく表現することができる。	集合 共通部分と和集合 全体集合と補集合 集合の要素の個数 補集合の要素の個数	○要素を書き並べて表して、集合の要素の個数を求めることができる。 ・例4, 練習4 ○和集合の要素の個数の公式を用いることができる。 ・例題1, 練習5 ○補集合の要素の個数の公式を用いることができる。 ・例題2, 練習6 ○日常的な事象に対して集合を考え、人数などを求めることができる。 ・例題3, 練習7	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	和の法則 積の法則 順列 組合せ	○順列の用語、記号、公式を理解し、利用できる。 ・例5, 練習12, 13 ○具体的な問題を通じて、どのような場合に順列の考え方が適用できるかを見極めることができる。 ・例題6～8, 練習14～16	○	○	○	8
	確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	確率の基本性質 和事象の確率 余事象の確率 独立な試行の確率 反復試行の確率 条件付確率	○積事象、和事象の意味を理解し、具体的な事象に対して、積事象、和事象を集合で表すことができる。 ・例10, 練習31 ○事象の排反の意味を理解し、2つの事象が排反であるかを判断できる。 ・練習32	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
2 学 期	三角形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	角の二等分線 三角形の外心、内心、重心 チェバの定理、メネラウスの定理	○平行線の性質を用いて、線分の長さを求めることができる。 ・練習1 ○線分の内分と外分を理解し、内分する点と外分する点を図示することができる。 ・例1, 練習2 ○三角形の内角・外角の二等分線と比の性質を用いて、線分の長さを求めることができる。 ・例2, 練習3	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	円の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	円周角の定理 円と接線 方べきの定理 空間図形	中学校で学んだ円周角の定理やその逆について理解している。 ・p. 80, 81 ○円周角の定理を用いて、角の大きさを求めることができる。 ・例6, 練習10 ○円周角の定理の逆を用いて、4点が同一円周上にあることを調べることができる。 ・練習11	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	さまざまな人間の活動の中から、整数を中心とした数学的な要素を見出し、数学の内容の理解を深めると同時に、現実の事象を、数学を用いて考察できるような力を培う。	約数と倍数 一次不定方程式 記数法	○公約数、最大公約数の意味を理解し、それらを求めることができる。 ・例5, 練習9 ○素因数分解を利用して最大公約数を求める方法を理解している。また、互いに素の意味を理解し、2つの整数が互いに素であるかどうか判定できる。 ・例6, 練習10	○	○	○	16
3 学 期	定期考査			○	○		1
							合計 70

三宅 高等学校 令和7年度（1 学年用） 教科 理科 科目 化学基礎

教 科： 理科 科 目： 化学基礎 単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 NK 組～ F 組

教科担当者：見上 武

使用教科書：（ 高校化学基礎 実教出版 ）

教科 理科 の目標：

【知 識 及 び 技 能】自然現象に関する概念や原理・法則を理解し、探究に必要な技術を身に着ける。

【思考力、判断力、表現力等】自然現象に対して、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力を育む。

【学びに向かう力、人間性等】自然現象に主体的に関わり、課題を解決する態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 化学基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
物質とその変化について理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。	化学における基礎的事項について、観察・実験を通じて問題を見出し、科学的に考察し表現する。	物質の構成などに主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	1章1節物質の分離と精製方法について、元素の確認、状態変化などについて理解させる。また、実験に必要な技能を身に付けさせる。物質三態の違いおよび熱運動について理解させる。	・純物質と混合物の性質 ・混合物の分離と精製 ・単体と化合物 ・単体と元素 ・同素体 ・元素の確認 ・物質の三態と状態変化 ・熱運動と温度	【知識・技能】 物質の分離・精製や元素の確認、状態変化などについて理解するとともに、実験の技能と物質を探究する方法を身に付けている。 【思考・判断・表現】 物質の分離・精製や元素の確認、状態変化などの観察、実験を行い、科学的に探究する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 物質の分離・精製や元素の確認、状態変化などに主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	1章2節 原子の構造、物質の構成粒子について理解させる。 原子の電子配置から、イオンへの変化について理解させる。 周期表を書くことで、性質の類似点を理解させる。	・原子 ・原子番号 ・同位体 ・電子配置 ・イオンの生成 ・周期表 ・イオン化エネルギー	【知識・技能】 物質の構成粒子について理解するとともに、実験の技能と物質を探究する方法を身に付けている。 【思考・判断・表現】 物質の構成についての観察、実験を行い、物質の構成における規則性や関係性を見いだして表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 物質の構成などに主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	8
	2章1節 イオン結合について、陽イオンと陰イオンがクーロン力で結びついた結合であることを、電子配置と関連付けて理解させる。 様々なイオン結晶が存在し、その性質について、日常生活と関連付けながら探究させる。	・イオン結合 ・イオン結晶の組成式と書き方 ・イオン結晶の融点 ・イオン結晶の電気伝導性 ・電解質と非電解質 ・イオン結晶の利用	【知識・技能】 イオンの生成を電子配置と関連付けて理解するとともに、実験の技能と物質を探究する方法を身に付けている。 【思考・判断・表現】 イオンやイオン結合の性質についての観察、実験を行い、科学的に探究する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 イオンやイオン結合などに主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
2 学 期	2章2節 分子からできた物質の性質について理解させる。 共有結合について、電子配置と関連付けながら理解させる。 分子の構造式を書けるように指導する。 電気陰性度について、具体的な例を挙げることができる。 分子結晶の性質および、利用例、日常生活との関連について理解させる。	・分子 ・分子式 ・共有結合と分子の形成 ・電子式 ・共有電子対と非共有電子対 ・構造式 ・配位結合 ・電気陰性度 ・分子の極性と溶解度 ・分子結晶の性質と利用 ・高分子化合物 ・共有結合の結晶	【知識・技能】 共有結合を電子配置と関連付けて理解するとともに、実験の技能と物質を探究する方法を身に付けている。また、分子からなる物質の性質を理解している。 【思考・判断・表現】 分子からなる物質の性質についての観察、実験を行い、科学的に探究する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 共有結合や分子からなる物質などに主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	2章3節 金属結合について、金属の展性や延性、電気伝導性などの性質と関連付けながら理解させる。 金属の代表的な例として、鉄・アルミニウム・銅などの利用例より、日常生活と関連付けながら探究させる。	・金属結合 ・金属の利用 ・合金	【知識・技能】 金属結合を電子配置と関連付けて理解するとともに、金属の性質を理解している。 【思考・判断・表現】 金属の性質についての観察、実験を行い、科学的に探究する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 金属に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。	○	○	○	3

3 学 期	3章1節 原子量・分子量・式量の意味を理解させる。また、物質量の意味および1molの定義、アボガドロ定数などについて学習し、モル質量の計算を習得させる。アボガドロの法則より、気体の体積を求められるようにする。 質量パーセント濃度について学習し、溶液の洋室の質量などを計算できるようにさせる。 化学反応式、イオン反応式の書き方について理解する。 化学反応式の係数から応物や生成物の量を計算から求めることができるようにする。	- 原子の早退質量 - 元素の原子量 - 分子量・式量・物質質量 - mol質量 - アボガドロの法則 - 質量パーセント濃度 - モル濃度 - 化学反応式の書き方 - イオン反応式 - 化学反応の量的な関係	【知識・技能】 物質質量と化学反応式について理解するとともに、実験の技能と物質を探究する方法を身に付けている。 【思考・判断・表現】 物質質量と化学反応式についての観察、実験を行い、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 物質と化学反応式について主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	3章2節 酸性・塩基性の性質を理解させる。アレニウスの定義から、酸・塩基の電離式を書けるようにする。酸・塩基の価数について理解し、電離度や強弱の関係について学習する。水素イオン濃度について理解させる。中和滴定に使用する実験器具および使用方法について学習し、正しく中和滴定実験を実施させていく。また、中和反応の結果から、酸・塩基の水溶液のモル濃度を求められる。	- 酸性・塩基性 - アレニウスの定義 - 酸・塩基の価数 - 酸塩基の電離度と強弱 - 水溶液の酸性・中性・塩基性 - pH - 強酸・強塩基の濃度変化のpH - 中和反応 - 中和反応と量的関係 - 中和滴定 - 滴定曲線 - 塩の分類	【知識・技能】 酸・塩基と中和について理解するとともに、器具の扱い方や溶液の調製方法など滴定操作における基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 酸・塩基と中和についての観察、実験を行い、中和反応に関与する物質の量的関係を科学的に探究する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 酸・塩基と中和に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	8
3 学 期	3章3節 酸化還元と水素酸素のやり取り、電子のやり取りとの関係について理解させる。酸化剤・還元剤について理解し、利用例や日常生活との関連について探究させる。 酸化還元滴定から、酸化剤・還元剤の水溶液のモル濃度を求められる。 金属のイオン化傾向と酸化還元の関係について理解させる。 電池の一般的な仕組みを酸化還元反応と関連付けて理解させる。ボルタ電池・一次電池・二次電池についてイオン反応式の観点から違いなどについて理解させる。	- 酸化還元反応 - 酸化剤・還元剤 - 酸化還元の量的な関係 - 金属のイオン化傾向 - 金属と水・酸との反応 - 電池の原理 - ダニエル電池・ボルタ電池 - 一次電池と二次電池	【知識・技能】 酸化と還元について理解するとともに、実験の技能と物質を探究する方法を身に付ける。 【思考・判断・表現】 酸化と還元についての観察、実験を行い、科学的に探究する力を身に付ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 酸化と還元に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	9
	定期考査			○	○		1 合計 70

年間授業計画

三宅高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 理科 科目 生物基礎

教科：理科 科目：生物基礎 単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 NK組～ F組

教科担当者：加藤 千鶴

使用教科書：（ 高校生物基礎 実教出版 ）

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】自然現象に関する概念や原理・法則を理解し、探究に必要な技術を身に着ける。

【思考力、判断力、表現力等】自然現象に対して、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力を育む。

【学びに向かう力、人間性等】自然現象に主体的に関わり、課題を解決する態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 生物基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生物や生物現象についての観察、実験などを行うことで生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技を身に付ける。	生物現象から、探究の過程を通して観察、情報収集、仮説設定、実験計画、検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得する。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力を育む。	生物現象に主体的に関わり、気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。また、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	4章1節 生物と環境の関係や生態系の成り立ちについて正確に理解させる。 植生について学習し、様々な要因によって影響を受けることを理解させる。一次遷移・二次遷移について学習し、三宅島の土地と照らし合わせ、遷移について具体的に探究させていく。	・生物と環境 ・植生 ・陽性植物・陰性植物 ・植生の遷移 ・森林の更新	【知識・技能】 陸上には、森林・草原・砂漠などの多くの植生がみられ、植物をとり巻く環境や構成種により植生が変わっていくことを理解している。 【思考・判断・表現】 植生の遷移が、光環境や土壌の変化によってどのように進むかを説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 資料に基づいて、植生が変化する要因を見出し、その要因が植生にどのように影響するかを理解しようとする。	○	○	○	5
	4章2節 世界のバイオームの分布と気象条件の関係を理解させる。日本のバイオームの特徴について理解させる。	・バイオームとその要因 ・世界各地のバイオーム ・水平分布 ・垂直分布	【知識・技能】 地球上には、気温や降水量ごとにさまざまなバイオームが成立していることを理解している。 【思考・判断・表現】 気温や降水量によって成立するバイオームが異なるのは、バイオームを構成する植物種がその場所の気温や降水量に適応しているためであると考察し、それを表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 地球上にはさまざまなバイオームが成立していることを理解しようとする。	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1
	4章3節 生態系には多様な生物種が存在し、その生物同士の関係性について理解させる。ペインの実験を調べ、キーストーン種を取り除くことで起こる現象について、探究させていく。	・土壌動物の観察 ・種の多様性 ・生態系内の生物のかかわり ・間接効果とキーストーン種	【知識・技能】 捕食によって物質とエネルギーが移動することを理解している。 野外で行う調査・実験の方法を習得している。 【思考・判断・表現】 生物の多様性を食物網や間接効果と関連付けて説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 生物が多様であることを、食物網や間接効果と関連付けて説明できる。	○	○	○	4
	4章4節 生態系が一定のバランスから成り立っていること、また人間の生活が影響を与えていることを調べ、具体的に理解させていく。 どのような活動がバランスに影響を与えているか、考えさせていく。 生態系の保全の必要性について理解させ、自然環境の保全に寄与する態度を身に付けさせる。	・生態系のバランスの維持 ・水質への影響 ・森林の破壊 ・生態系の保全と重要性	【知識・技能】 生態系のバランスや、生態系の保全の重要性について理解している。 インターネットや文献などを用いて、調査する方法を習得している。 【思考・判断・表現】 世界の環境問題について、情報を調査し、自分の考えをまとめ、表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 生態系のバランスや、生態系を保全することが重要であることを理解しようとする。	○	○	○	5
	定期考査			○	○		1

2 学 期	1章1節 生物の共通性・多様性について、進化と関連付けて理解させる。 原核細胞・真核細胞について学習し、構造や働きについて理解させる。細胞小器官の名称と特徴を理解させる。 細胞の観察実験を通して、生物の構造や違いについて探究し、理解しようとする力を養う。	・生物の共通性 ・生物の分類 ・生物の進化と共通性・多様性 ・様々な細胞 ・単細胞生物と多細胞生物	【知識・技能】 原核細胞と真核細胞の違いについて理解している。試料を光学顕微鏡で観察する技能を習得している。 【思考・判断・表現】 資料や実験をもとに、生物に共通する性質を見出し表現することができる。 DNAのはたらきについて理解し、説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 生物の共通性を、実験や観察を通して見出し、理解しようとする。 原核細胞と真核細胞について、違いを理解しようとする。	○	○	○	6
	1章2節 代謝には同化と異化があり、ATPを利用して行われることを理解させる。 生体触媒である酵素を上げ、その働きと気質特異性について理解させる。また、酵素カタラーゼの実験を行うことで、酵素の働きや基質との関係について、科学的に探究させていく。 光合成と呼吸の仕組みやATPとの関係について理解させる。	・生命活動とエネルギー ・代謝 ・酵素の働き ・光合成と葉緑体 ・呼吸とミトコンドリア ・光合成と呼吸の比較	【知識・技能】 生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解している。 生体内で行われる化学反応は、酵素が触媒していることを理解している。 【思考・判断・表現】 呼吸や光合成からエネルギーを得る方法を、ATPと関連づけて考察できる。 カタラーゼを用いた実験から、酵素の作用と作用する物質の関係について結果を導き出すことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 生命活動にエネルギーが必要であることを理解しようとする。また、呼吸や光合成から得ていることを理解しようとする。 体内で行われる化学反応は、酵素が関わっていることを理解しようとする。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
	2章1節 染色体とDNA、遺伝子の違いについて理解させる。また、DNAの構造から、DNAの複製の仕組みについて理解させる。	・遺伝子とDNA ・遺伝子の構造 ・細胞周期 ・DNAの複製	【知識・技能】 DNAが二重らせん構造であり、2本鎖の塩基配列は相補的であることを理解している。 生物の組織からDNAを抽出する技能を習得している。 【思考・判断・表現】 資料に基づき、DNAの構造を科学的に見出すことができる。 DNAの複製を塩基配列と関連付けて説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ゲノムと遺伝子、染色体、DNAの関係について理解しようとする。 細胞分裂の際に、DNAの塩基配列が正確に複製されるしくみを見出し、理解しようとする。	○	○	○	6
	2章2節 生物のからだが様々なタンパク質から構成されており、そのタンパク質はアミノ酸からできていることを理解させる。 DNAとRNAを比較することで違いに気づき、タンパク質合成の流れである転写・翻訳との関係について理解させる。 ゲノムと遺伝子の関係について理解させる。	・生体とタンパク質 ・遺伝子とタンパク質 ・DNAとRNA ・セントラルドグマ ・遺伝子の発現とタンパク質 ・遺伝情報とゲノム ・ゲノムと遺伝子	【知識・技能】 遺伝子の発現について理解し、細胞ごとに特定の遺伝子が発現することを理解している。 試料の採取、染色などを行い、光学顕微鏡で観察する技能を習得している。 【思考・判断・表現】 mRNAとアミノ酸との対応関係について、遺伝暗号表から読み解くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 DNAの塩基配列の情報に基づいて、タンパク質が合成されることを理解しようとする。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
3 学 期	3章1節 体内環境の役割および、一定の範囲に調節されていること(恒常性)について理解させる。血液の成分や働き、血液凝固について理解させる。肝臓と腎臓の役割について学習し、体液の調節を行っていることを理解させる。	・生物と環境 ・恒常性 ・体液の種類 ・血液凝固 ・肝臓による調節 ・腎臓による調節	【知識・技能】 体内環境が一定の範囲に保たれることとその意味を理解している。 肝臓による物質の合成・分解などのしくみや、腎臓での塩類濃度の調節を理解している。 【思考・判断・表現】 腎臓の働きについて体系的に理解し、ろ過・再吸収のしくみを説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 肝臓や腎臓の機能を理解し、人体についての理解を深めようとする。	○	○	○	7
	3章2節 体内環境の維持と自律神経系、ホルモンとの関係について理解させる。 血糖濃度の調節やインスリンとの関係について、グラフを正確に読み取らせ、理解を深める。	・心拍数と呼吸数の変化について ・情報の伝達 ・自律神経系 ・内分泌腺とホルモン ・内分泌系の調節 ・血糖濃度の調節	【知識・技能】 ホルモンの分泌により血糖濃度が保たれることを理解している。 実験により得られたデータを比較・分析することにより、結論を導き出すことができる。 【思考・判断・表現】 血糖濃度調節のしくみを、ホルモンと自律神経系の両方の働きから説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 資料に基づいて、ヒトの血糖濃度が調節されるしくみを見出し、理解しようとする。	○	○	○	8
	3章3節 生体防御の概要について理解させ	・生体防御の免疫 ・物理・化学的防御	【知識・技能】 免疫の医療への応用やヒトの免疫疾患について				

	る。免疫にかかわる細胞や器官について理解する。 自然免疫や食作用、細胞性免疫や体液性免疫のシステムの流れについて理解させる。 記憶細胞による予防接種や免疫機能過敏によるアレルギー、免疫不全について正確に理解させる。	・食作用 ・細胞性免疫 ・体液性免疫 ・二次応答 ・免疫機能の過敏 ・免疫機能の利用	て理解している。 【思考・判断・表現】 病原体を認識・排除する機構のしくみを体系的に考察し、表現することができる。 ヒトの免疫疾患について、身近な例をもとに説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 免疫について、身近な現象と絡めて理解しようとする。	○	○	○	8
定期考査				○	○		1
							合計
							70

三宅高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教 科： 保健体育 科 目： 体育 単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 併合科 ・ 普通科

教科担当者：安井 瑛奈

使用教科書：（ 新高等 保健体育(大修館書店) ・ ステップアップ高校スポーツ2025 ）

教科 保健体育 の目標：

- 【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての他者や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付ける。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	体づくり運動 【知識及び技能】 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 体づくり運動に主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとするなど、合意形成に貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができる。	・集団行動 ・体ほぐしの運動 ・実生活に生かす運動の計画 ・コーディネーションントレーニング ・体力テスト ・体育理論	【知識・技能】 ・技能テスト ・体力テスト ・小テスト 【思考・判断・表現】 ・学習カード ・レポート等 【主体的に学習に取り組む態度】 ・取り組み状況 ・振り返り ・提出物				10
	水泳 【知識及び技能】 ・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解することができる。 ・クロールでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができる。 ・平泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとするなど、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保することができる。	・クロール ・平泳ぎ	【知識・技能】 ・技能テスト ・体力テスト ・小テスト 【思考・判断・表現】 ・学習カード ・レポート等 【主体的に学習に取り組む態度】 ・取り組み状況 ・振り返り ・提出物				10

2 学 期	球技 【知識及び技能】 ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 ・安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができる。	・ソフトボール	【知識・技能】 ・技能テスト ・体力テスト ・小テスト 【思考・判断・表現】 ・学習カード ・レポート等 【主体的に学習に取り組む態度】 ・取り組み状況 ・振り返り ・提出物				15
	陸上競技 【知識及び技能】 ・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解することができる。 ・自己に適したペースを維持して走ることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保することができる。	・長距離走	【知識・技能】 ・技能テスト ・体力テスト ・小テスト 【思考・判断・表現】 ・学習カード ・レポート等 【主体的に学習に取り組む態度】 ・取り組み状況 ・振り返り ・提出物				15

3 学 期	球技 【知識及び技能】 ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 ・役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができる。	・バドミントン	【知識・技能】 ・技能テスト ・体力テスト ・小テスト 【思考・判断・表現】 ・学習カード ・レポート等 【主体的に学習に取り組む態度】 ・取り組み状況 ・振り返り ・提出物				12
	体育理論 【知識及び技能】 ・現代のスポーツは、オリンピックやパラリンピック等の国際大会を通して、国際親善や世界平和に大きな役割を果たし、共生社会の実現にも寄与していること。また、ドーピングは、フェアプレイの精神に反するなど、能力の限界に挑戦するスポーツの文化的価値を失わせることを理解できる。 ・現代のスポーツは、経済的な波及効果があり、スポーツ産業が経済の中で大きな影響を及ぼしていること。また、スポーツの経済的な波及効果が高まるにつれ、スポーツの高潔さなどが一層求められることを理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主	・オリンピック・パラリンピックと国際社会 ・スポーツの経済効果とスポーツ産業 ・スポーツに求められる高潔さ	【知識・技能】 ・技能テスト ・体力テスト ・小テスト 【思考・判断・表現】 ・学習カード ・レポート等 【主体的に学習に取り組む態度】 ・取り組み状況 ・振り返り ・提出物				8
							合計
							70

三宅高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 保健体育 科目 保健

教 科： 保健体育 科 目： 保健 単位数： 1 単位

対象学年組：第 1 学年 N1組～ F 組

教科担当者：安井 瑛奈

使用教科書：（ 新高等 保健体育（大修館書店） ）

教科 保健体育 の目標：

【知 識 及 び 技 能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 保健 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	現代社会と健康 【知識及び技能】 国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること。また、健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていることを理解することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組むことができる。	・日本における健康課題の変遷 ・健康の考え方と成り立ち ・ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり ・健康に関する意思決定・行動選択	【知識・技能】 ・定期考査 ・小テスト ・授業プリント 【思考・判断・表現】 ・定期考査 ・授業プリント ・レポート等 【主体的に学習に取り組む態度】 ・取り組み状況 ・振り返り ・提出物	○	○	○	5
	安全な社会生活（応急手当） 【知識及び技能】 ・適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを理解することができる。 ・心肺蘇生法などの応急手当を適切に行うことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組むことができる。	・応急手当の意義と救命医療体制 ・心肺蘇生法 ・日常的な応急手当	【知識・技能】 ・定期考査 ・小テスト ・授業プリント ・技能テスト 【思考・判断・表現】 ・定期考査 ・授業プリント ・レポート等 【主体的に学習に取り組む態度】 ・取り組み状況 ・振り返り ・提出物	○	○	○	5
	安全な社会生活（安全な社会づくり） 【知識及び技能】 安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であること。また、交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わること。交通事故には補償をはじめとした責任が生じることを理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組むことができる。	・事故の現状と発生要因 ・交通事故防止の取り組み ・安全な社会の形成	【知識・技能】 ・定期考査 ・小テスト ・授業プリント 【思考・判断・表現】 ・定期考査 ・授業プリント ・レポート等 【主体的に学習に取り組む態度】 ・取り組み状況 ・振り返り ・提出物	○	○	○	5
	定期考査			○	○		1

2 学 期	現代社会と健康 【知識及び技能】 ・感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることと理解することができる。 ・健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることを理解する。 ・喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になること。また、薬物乱用は、身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組むことができる。	・現代における感染症の問題 ・感染症の予防 ・生還斉唱・エイズとその予防 ・生活習慣病の予防と回復 ・身体活動・運動と健康 ・食事と健康 ・休養・睡眠と健康 ・がんの予防と回復	【知識・技能】 ・定期考査 ・小テスト ・授業プリント 【思考・判断・表現】 ・定期考査 ・授業プリント ・レポート等 【主体的に学習に取り組む態度】 ・取り組み状況 ・振り返り ・提出物				10
	定期考査			○	○		1
3 学 期	現代社会と健康 【知識及び技能】 ・喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になること。また、薬物乱用は、身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることを理解する。 ・精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であること。また、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組むことができる。	・喫煙と健康 ・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康 ・精神疾患の特徴 ・精神疾患への対応	【知識・技能】 ・定期考査 ・小テスト ・授業プリント 【思考・判断・表現】 ・定期考査 ・授業プリント ・レポート等 【主体的に学習に取り組む態度】 ・取り組み状況 ・振り返り ・提出物				7
	定期考査			○	○		1
							合計
							35

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 数学 科目 数学 I

教科 数学 科目 数学 I 単位数 3 単位

対象学年組 第 1 学年 NK組～ F 組

教科担当者 (基礎クラス: 鈴木 博子) (標準クラス: 斎藤 光)

使用教科書 (数研出版 最新 数学 I)

教科 数学 の目標

- 【知識及び技能】 基本的な公式、計算ができるようになる。
- 【思考力、判断力、表現力等】 問題からどの公式を使うか、どのように計算していくか考えて問題を解けるようになる。
- 【学びに向かう力、人間性等】 多くの問題が解けるように努力したり、他者とどのように問題を解いたのか共有することができるようになる。

科目 数学 I の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
基本的な公式、計算ができるようになる。	問題からどの公式を使うか、どのように計算していくか考えて問題を解けるようになる。	多くの問題が解けるように努力したり、他者とどのように問題を解いたのか共有することができるようになる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	【知識・技能】 数と式について理解し、問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 公式を適切に使用することができる 【主体的に学習に取り組む態度】 問題の解き方を他者に説明できる	多項式、多項式の加法・減法・乗法、展開の公式、式の展開の工夫、因数分解、いろいろな因数分解、実数、根号を含む式の計算、不等式、不等式の性質、1次不等式の解き方、連立不等式、不等式の利用	【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発問 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み	○	○	○	28
	定期考査			○	○		1
	【知識・技能】 集合と命題について理解し、問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 集合に関する証明ができる 【主体的に学習に取り組む態度】 問題の解き方を他者に説明できる	集合と部分集合、共通部分・和集合・補集合、命題と集合、命題と証明	【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発問 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み	○	○	○	9
	定期考査			○	○		1
2 学期	【知識・技能】 2次関数について理解し、問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 グラフから方程式を求められる 【主体的に学習に取り組む態度】 問題の解き方を他者に説明できる	関数、関数とグラフ、2次関数の最大・最小、2次関数の決定、連立不等式、2次関数のグラフと軸の共有点、2次不等式、2次不等式の利用	【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発問 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み	○	○	○	29
	定期考査			○	○		1
	【知識・技能】 図形と計量について理解し、問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 三角比を用いて測量ができる 【主体的に学習に取り組む態度】 問題の解き方を他者に説明できる	鋭角の三角比、三角比の利用。、三角比の相互関係、三角比の拡張、三角比が与えられたときの角、正弦定理、余弦定理、三角形の面積	【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発問 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み	○	○	○	11
	定期考査			○	○		1
3 学期	【知識・技能】 図形と計量について理解し、問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 三角比を用いて測量ができる 【主体的に学習に取り組む態度】 問題の解き方を他者に説明できる	鋭角の三角比、三角比の利用。、三角比の相互関係、三角比の拡張、三角比が与えられたときの角、正弦定理、余弦定理、三角形の面積	【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発問 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み	○	○	○	8
	【知識・技能】 データの分析について理解し、問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 公式を適切に使用することができる 【主体的に学習に取り組む態度】 問題の解き方を他者に説明できる	データの整理・代表値・散らばり・相関、相関係数、分割表、仮設検定の考え方	【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発問 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
							合計
							105

三宅 高等学校 令和7年度（1 学年用） 教科 芸術（美術） 科目 美術Ⅰ

單位數： 2 單位

使用教科書：（ 光村図書 美術 1 ）

の目標：

【思考力 判断力 表現力等】主題を生成し、発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。

【学びに向かう力、人間性等】美術や芸術文化に親しみ、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

の目標：

[illegible]

三宅高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 芸術 科目 音楽Ⅰ

教科：芸術 科目：音楽Ⅰ 単位数：2 単位

対象学年組：第 1 学年 N・F 組

教科担当者：（紺野 鷹生）

使用教科書：（教育芸術社：MOUSA）

- 教科 芸術 の目標：
- 【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現をしたり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 音楽Ⅰ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想をと音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に着けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聞くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			歌	器	創						
1 学 期	A 校歌 【知識及び技能】言葉の特性と曲種（音楽の種類）に応じた発声との関わりを理解し、創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な技能を身に付けて歌うことができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】歌唱表現にかかわる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり歌唱を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。	【校歌】 ・校歌の歌唱 ・校歌の記譜	○			○	【知識・技能】曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 また、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱で表している。 【思考・判断・表現】音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聞いたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】曲想と音楽の構造や歌詞との関わりに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	B ソルフェージュ 【知識及び技能】視唱に関する知識や技能を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】音楽を形づくっている要素の働きやその効果などに関する思考力、判断力、表現力等を育成する。 【学びに向かう力、人間性等】音楽性豊かな表現をするための基礎となる学習を大切にできる態度を養う。	【ソルフェージュ】 ・新曲視唱 ・新曲リズム ・叩き歌い	○			○	【知識・技能】曲想と手拍子の奏法との関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】音色、リズム、速度、テクスチャ、強弱、形式、構造を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととのかわりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】曲想と手拍子の奏法との関わり、及び他者との調和を意識して演奏することに関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	10
	C 楽典 【知識及び技能】音楽に関する基礎的な理論について理解するとともに、理解したことを楽譜によって表す技能を身に付けるようになる。 【思考力、判断力、表現力等】音楽理論を表現や鑑賞の学習に活用する思考力、判断力、表現力等を育成する。 【学びに向かう力、人間性等】音楽理論を表現や鑑賞に生かそうとする態度を養う。	【楽典】 ・音名 ・譜表 ・音符 ・休符 ・リズム ・反復記号	○				【知識・技能】音楽に関する基礎的な理論について理解している 【思考・判断・表現】音楽理論を表現や鑑賞の学習に活用する思考力、判断力、表現力を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】音楽理論を表現や鑑賞に生かしている	○	○	○	10

2 学 期	D 小さな空 【知識及び技能】歌唱表現に関する知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫させる。 【思考力、判断力、表現力等】②曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりを理解させる。また、言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりを理解させる。 【学びに向かう力、人間性等】③曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方を理解させる	・歌唱 ・イタリア語歌詞の意味の理解	○	○	○	【知識・技能】・曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。 【思考・判断・表現】音色、リズム、速度、テクスチャ、強弱、形式、構造を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととのかかわりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習活動の取り組みもうとしている。	○	○	○	5
	E 三味線 ・三味線の各構造を知る ・三味線の構え方を知る ・撥の使い方を知る ・文化譜の読み方を知る ・曲の雰囲気を知る ・曲にふさわしい奏法で弾く ・正しいリズム、音色で弾く	DVD鑑賞 花笠音頭 寄せの合方	○	○	○	【知識・技能】・曲想と和楽器の音色や双方との関わり、及び和楽器を使った様々な表現形態による器楽表現の特徴について理解している。 ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】音色、リズム、速度、テクスチャ、強弱、形式、構造を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり、及び和楽器を使った様々な表現に関心を持ち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。 ・和楽器やその作品の特徴、及び他の楽器と比較した際の音楽表現の共通性や固有性に関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	12
	F ピアノによる様々な表現効果 ・音楽の特徴を知る ・様々な世代のピアノの特徴を知る ・様々な世代のピアノ曲を知る	ピアノ鑑賞	○	○	○	【知識・技能】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。 【思考・判断・表現】音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それら働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。 【主体的に学習に取り組む態度】 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	G モーツァルトについて ・モーツァルトの生涯を知る ・様々なジャンルの音楽を知る ・様々な作品の特徴を知る	映画『アマデウス』の鑑賞	○	○	○	【知識・技能】 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している 【思考・判断・表現】 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きについてを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている 【主体的に学習に取り組む態度】 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている	○	○	○	4

	H 楽典 【知識及び技能】音楽に関する基礎的な理論について理解するとともに、理解したことを楽譜によって表す技能を身に付けるようになる。 【思考力、判断力、表現力等】音楽理論を表現や鑑賞の学習に活用する思考力、判断力、表現力等を育成する。 【学びに向かう力、人間性等】音楽理論を表現や鑑賞に生かそうとする態度を養う。	○				【知識・技能】 音楽に関する基礎的な理論について理解している 【思考・判断・表現】 音楽理論を表現や鑑賞の学習に活用する思考力、判断力、表現力を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 音楽理論を表現や鑑賞に生かしている	○	○	○	5	
3 学 期	I 創作 ・どのような音楽を作りたいか考える ・旋律を考える ・旋律を音に表す	ICTの活用			○	○	【知識・技能】 創意工夫を生かした創作表現をするために必要な手法を生かして音楽をつくる技能及び旋律をつくったりする技能を身に付け創作で表している 【思考・判断・表現】 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きについて感受しながら、知覚したものと感受したことの関わりについて考えるどのように音楽を作るかについて表現意図をもっている 【主体的に学習に取り組む態度】 旋律を作った時の響きに関心をもち、主体的・協働的に創作の白秋活動に取り組もうとしている	○	○	○	12
	J 楽典（和音、コードネーム） 【知識及び技能】音楽に関する基礎的な理論について理解するとともに、理解したことを楽譜によって表す技能を身に付けるようになる。 【思考力、判断力、表現力等】音楽理論を表現や鑑賞の学習に活用する思考力、判断力、表現力等を育成する。 【学びに向かう力、人間性等】音楽理論を表現や鑑賞に生かそうとする態度を養う。	【楽典】 ・和音 ・コードネーム	○				【知識・技能】 音楽に関する基礎的な理論について理解している 【思考・判断・表現】 音楽理論を表現や鑑賞の学習に活用する思考力、判断力、表現力を理解している 【主体的に学習に取り組む態度】 音楽理論を表現や鑑賞に生かしている	○	○	○	5 合計 70

科目 英語コミュニケーションⅠ

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
単語や熟語、文法、文構造等の基礎・基本的な知識を習得する	様々な話題に関して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする力を養う	教科書の単元で扱われる話題を実際の生活と結び付けて、英語に興味を持たせる

[illegible]

年間授業計画

三宅 高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 情報 科目 情報Ⅰ

教 科： 情報 科 目： 情報Ⅰ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 NK組～ F 組

教科担当者：（ NK・F組：斎藤 光 ）

使用教科書：（ 高校情報Ⅰ python（実教出版） ）

教科 情報 の目標：

【知 識 及 び 技 能】ICTがどのように成り立っているのかを知り、それらを活用できるようになる。

【思考力、判断力、表現力等】 限りある情報から、状況に応じた判断ができるようになる。

【学びに向かう力、人間性等】 他者と意思疎通を図り、問題解決に向けて協力ができるようになる。

科目 情報Ⅰ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
ICTがどのように成り立っているのかを知り、それらを活用できる。	限りある情報から、状況に応じた判断ができる。	他者と意思疎通を図り、問題解決に向けて協力することができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	情報社会について理解する。 【知識・技能】 情報についての定義とその特性について理解している。 【思考力・判断力・表現力】 情報社会の利点や課題を踏まえ、これからの社会について考え、意見を表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 情報社会の一員として自ら主体的に考えている。	情報と情報社会 問題解決の考え方 法規による安全対策 個人情報とその扱い 知的財産権の概要と産業財産権 著作権	【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発表 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み	○	○	○	12
	情報デザインについて理解する。 【知識・技能】 情報の信ぴょう性について理解し、メディアリテラシーを身につけている。 【思考力・判断力・表現力】 乗法の信ぴょう性を判断し、メディアを活用して適切に表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 情報の真偽を適切に判断して、わかりやすく伝達・表現するために、自ら改善しようとしている。	コミュニケーションとメディア 情報デザインと表現の工夫 Webページと情報デザイン	【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発表 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み	○	○	○	6
2 学 期	デジタルについて理解する。 【知識・技能】 アナログとデジタルのそれぞれの特徴や違い、相互変換の方法を理解している。 【思考力・判断力・表現力】 アナログとデジタルの違いを理解し、目的に応じて適切に使い分けことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 身の回りのものを見比べて、デジタル情報の特徴について考察する。	デジタル情報の特徴 数値と文字の表現 演算の仕組み 音の表現 画像の表現 コンピュータの構成と動作 コンピュータの性能	【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発表 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み	○	○	○	14
	ネットワークについて理解する。 【知識・技能】 ネットワークの仕組みについて、概念を理解できる。 【思考力・判断力・表現力】 ネットワーク上に使われる様々なプロトコルを調べ、まとめることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ネットワーク上で使われる仕組みやプロトコルについて、メリットやデメリットを踏まえて考えることができる。	ネットワークをプロトコル インターネットの仕組み Webページの閲覧とメールの送受信 情報システム 情報システムを支えるデータベース 個人による安全対策	【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発表 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み	○	○	○	16
3 学 期	問題解決について理解する。 【知識・技能】 条件に従ってデータの抽出ができる。 【思考力・判断力・表現力】 豊富な情報を得るための適切なグラフを判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 表計算ソフトウェアの活用方法の修得に意欲的に取り組んでいる。	データの収集と整理 ソフトウェアを利用したデータの処理 統計量とデータの尺度 時系列分析と回帰分析 モデル化とシミュレーション	【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発表 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み	○	○	○	10
	プログラミングについて理解する。 【知識・技能】 フローチャートからアルゴリズムを理解することができる。 【思考力・判断力・表現力】 プログラムの作成の手順を説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 アルゴリズムに興味・関心をもって取り組んでいる。	アルゴリズムとプログラミング プログラミングの基本 配列 関数 探索のプログラム 整列のプログラム	【知識・技能】 定期テスト、提出物 【思考・判断・表現】 定期テスト、提出物、発表 【主体的に学習に取り組む態度】 提出物、話し合いでの取り組み	○	○	○	12
							合計 70

高等学校 令和7年度（1 学年用） 教科

農業

科目 総合実習（1 年）

教科 農業

科目 総合実習（1 年）

単位数 2 単位

対象学年組 第 1 学年 1 組～ 組

教科担当者（1 組：川村拓也（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）

使用教科書（ なし ）

教科 農業

の目標：

【知識及び技能】

【思考力、判断力、表現力等】

【学びに向かう力、人間性等】

草花および野菜の栽培と食品の製造に関する知識、技術の理解と定着を深めるとともに、目的や状況に応じた実際の場面において適切に運用、活用できる技能を身に付けるようにする。

草花および野菜の栽培と食品の製造の知識や技術を実際の場面において状況や状態を適切に判断して柔軟な思考力を持って対応することができる力を養う。

課題の解決に向け、探求的かつ意欲的な態度で自ら考え行動し、適応していく力、コミュニケーション能力、協調性、勤労意欲、チャレンジ精神などを主体的に図ろうとする態度を養う。

科目 総合実習（1 年）

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・食品分野に関する知識、技術の理解と定着を実習場面を介して深化させる技能を身に付けている。	・食品に関する実習を行うに際して、工程の中で柔軟な思考力、判断力、表現力を持って対応している。	・課題の解決に向け、探求的かつ意欲的な態度で自ら考え行動し、適応していく力、コミュニケーション能力、協調性、勤労意欲、チャレンジ精神などを主体的に図ろうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・食品製造の目的を学ぶことで、食品製造と調理の違いを理解できるようにする。 ・食生活を含めた生活文化の変化により、消費者のニーズも変化し、これに合わせた加工食品の製造が進んだことを理解できるようにする。 ・食品産業が常に解決し続けなければならない問題に、安全性の確立、環境問題、原料の安定供給があることを理解できるようにする。	食品製造の意義	・食品製造の意義、食品産業の現状と動向に関する基礎的な知識を身に付け、食品産業の社会的な役割について理解している。 ・食品製造の意義、食品産業の現状と動向に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。 ・食品製造の意義、食品産業の現状と動向について興味・関心をもち、食品産業の社会的な役割と暮らしとの関わりについて探究しようとしている。	○	○	○	2
	・お茶の加工の原理と、お茶の製造の製造工程を理解できるようにする。 ・チャの栽培管理ができる。	日本茶について	・原材料としての農産物の特徴、及び農産物の加工食品の基本的な製造過程と原理を知識として習得し、農産物に付加価値をつけて流通していることを理解している。 ・農産物を原料とした加工食品の製造方法を踏まえ、地域の農産物の特徴を生かした加工食品を製造するプランを立てられる。 ・原材料を農産物とした加工食品の製造に関心を持ち、原材料の特徴を生かし、衛生管理と倫理観にもとづいた食品製造を行う意欲・態度を身に付けている。	○	○	○	7
	・加工食品の原料としての穀類の種類と特徴を理解できるようにする。 ・パンの製造においてイースト菌による発酵の仕組みを理解する。 ・小麦粉の加工の原理と、クッキー、マドレーヌ、パンの製造工程を理解できるようにする。 ・原材料の特徴を理解し、クッキー、マドレーヌ、パンの製造を行うことができる。	穀類の加工 【クッキーの製造】 【マドレーヌの製造】 【パンの製造】	・原材料としての農産物の特徴、及び農産物の加工食品の基本的な製造過程と原理を知識として習得し、農産物に付加価値をつけて流通していることを理解している。 ・原材料としての農産物の特徴を理解し、農産物を主原料とした代表的な加工食品の製造を行うことができる。 ・原材料を農産物とした加工食品の製造に関心を持ち、原材料の特徴を生かし、衛生管理と倫理観にもとづいた食品製造を行う意欲・態度を身に付けている。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1

2 学 期	・加工食品の原材料としての豆類の特徴と種類を理解させる。 ・果実類の代表的な加工食品である、ジャム、ジュース、缶詰および乾燥果実の製造方法と理論を理解させる。徴を理解できるようにする。 ・豆類の代表的な加工食品である、豆腐の製造方法と理論を理解させる。特徴を理解できるようにする。 ・原材料の特徴を理解し、ジャムの製造を行うことができる。	園芸加工 【ジャムの製造】 【豆腐の製造】	・原材料としての農産物の特徴、及び農産物の加工食品の基本的な製造過程と原理を知識として習得し、農産物に付加価値をつけて流通していることを理解している。 ・原材料としての農産物の特徴を理解し、農産物を主原料とした代表的な加工食品の製造を行うことができる。 ・原材料を農産物とした加工食品の製造に関心を持ち、原材料の特徴を生かし、衛生管理と倫理観にもとづいた食品製造を行う意欲・態度を身に付けている	○	○	○	12
	・加工食品の原料としての穀類の種類と特徴を理解できるようにする。 ・小麦粉の加工の原理と、マドレーヌ、スポンジの製造工程を理解できるようにする。 ・原材料の特徴を理解し、丸パン、スポンジの製造を行うことができる。 ・デコレーションケーキのデザインの考え方を理解し、デザインができるようにする。	穀類加工 【マドレーヌの製造】 【デコレーションケーキの製造】	・原材料としての農産物の特徴、及び農産物の加工食品の基本的な製造過程と原理を知識として習得し、農産物に付加価値をつけて流通していることを理解している。 ・原材料としての農産物の特徴を理解し、農産物を主原料とした代表的な加工食品の製造を行うことができる。 ・原材料を農産物とした加工食品の製造に関心を持ち、原材料の特徴を生かし、衛生管理と倫理観にもとづいた食品製造を行う意欲・態度を身に付けている。	○	○	○	10
	・お茶の加工の原理と、お茶の製造の製造工程を理解できるようにする。 ・チャの栽培管理ができる。	日本茶について	・原材料としての農産物の特徴、及び農産物の加工食品の基本的な製造過程と原理を知識として習得し、農産物に付加価値をつけて流通していることを理解している。 ・農産物を原料とした加工食品の製造方法を踏まえ、地域の農産物の特徴を生かした加工食品を製造するプランを立てられる。 ・原材料を農産物とした加工食品の製造に関心を持ち、原材料の特徴を生かし、衛生管理と倫理観にもとづいた食品製造を行う意欲・態度を身に付けている。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
3 学 期	・加工食品の原料としての穀類の種類と特徴を理解できるようにする。 ・小麦粉の加工の原理と、シュークリーム、シフォンケーキの製造工程を理解できるようにする。 ・原材料の特徴を理解し、シュークリーム、シフォンケーキの製造を行うことができる。	穀類加工 【シュークリームの製造】 【シフォンケーキの製造】	・原材料としての農産物の特徴、及び農産物の加工食品の基本的な製造過程と原理を知識として習得し、農産物に付加価値をつけて流通していることを理解している。 ・原材料としての農産物の特徴を理解し、農産物を主原料とした代表的な加工食品の製造を行うことができる。 ・原材料を農産物とした加工食品の製造に関心を持ち、原材料の特徴を生かし、衛生管理と倫理観にもとづいた食品製造を行う意欲・態度を身に付けている。	○	○	○	8
	・加工食品の原材料としての豆類の特徴と種類を理解させる。 ・果実類の代表的な加工食品である、ジャム、ジュース、缶詰および乾燥果実の製造方法と理論を理解させる。徴を理解できるようにする。 ・原材料の特徴を理解し、ジャムの製造を行うことができる。	園芸加工 【ジャムの製造】	・原材料としての農産物の特徴、及び農産物の加工食品の基本的な製造過程と原理を知識として習得し、農産物に付加価値をつけて流通していることを理解している。 ・原材料としての農産物の特徴を理解し、農産物を主原料とした代表的な加工食品の製造を行うことができる。 ・原材料を農産物とした加工食品の製造に関心を持ち、原材料の特徴を生かし、衛生管理と倫理観にもとづいた食品製造を行う意欲・態度を身に付けている	○	○	○	2
	・加工食品の原材料としての豆類の特徴と種類を理解させる。 ・アズキを使用した製餡の製造方法と理論を理解させる。 ・餡を使用した加工食品である、ようかん、どらやきの製造方法と理論を理解させる。特徴を理解できるようにする。 ・豆類の代表的な加工食品である、豆腐の製造方法と理論を理解させる。特徴を理解できるようにする。	園芸加工 【まんじゅうの製造】	・原材料としての農産物の特徴、及び農産物の加工食品の基本的な製造過程と原理を知識として習得し、農産物に付加価値をつけて流通していることを理解している。 ・原材料としての農産物の特徴を理解し、農産物を主原料とした代表的な加工食品の製造を行うことができる。 ・原材料を農産物とした加工食品の製造に関心を持ち、原材料の特徴を生かし、衛生管理と倫理観にもとづいた食品製造を行う意欲・態度を身に付けている	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
							合計
							70

年間授業計画

三宅高等学校 令和7年度（農業科 1 学年用） 教科 農業 科目 農業と環境

教科： 0 科目： 農業と環境 単位数： 4 単位

対象学年組：第 1 学年 N 組～ 組

教科担当者：中嶋 龍也、石井 陽次

使用教科書：（ 実教出版「農業と環境」、 実習資料、自作プリント ）

教科 農業と環境 の目標：

【知識及び技能】草花および野菜の栽培と食品の製造に関する知識、技術の理解と定着を深めるとともに、目的や状況に応じた実際の場面において適切に運用、活用できる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】草花および野菜の栽培と食品の製造に関する知識や技術を実際の場面において状況や状態を適切に判断して柔軟な思考力を持って対応することができる力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】課題の解決に向け、探究的かつ意欲的な態度で自ら考え行動し、対応していく力、コミュニケーション能力、協調性、勤労意欲、チャレンジ精神などを主体的に図ろうとしている。

科目 農業と環境 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
農業と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	農業と環境について基礎的な知識と技術が農業の各分野で活用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 農業と環境を学ぶ ・農業と環境の学び方について理解しているとともに、関連する技術を身につけている。 ・農業と環境の学びに関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決する。 ・農業と環境の学び方について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	2 農業と環境の学び方 （1）農業学習の特徴 （2）プロジェクト学習とその流れ （3）報告書の作成と発表 （4）農業学習におけるプロジェクト学習 3 学校農業クラブ活動 （1）学校農業クラブ活動の目標 （2）学校農業クラブの組織と活動	・農業と環境の学び方について理解しているとともに、関連する技術を身につけている。 ・学校農業クラブ活動について理解している。 ・農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。 ・農業学習について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ・農業と環境の学び方について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ・学校農業クラブ活動について、主体的、協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	5
	第3章 栽培と飼育の基礎 ・作物や家畜の特性や生育環境・管理に関する基礎的なことを理解するとともに、関連する技術を身につける。 ・作物栽培や家畜飼育とそれらの生育環境を多面的・科学的に考察し、想定される管理上の諸課題について整理し、解決に向け、創造的に解決する。 ・作物や家畜の特性や生育環境・管理に関する基礎的な知識を身につけさせるとともに、技術の仕組みを理解させる。	1 作物の特性と栽培のしくみ （1）生活の中の作物 （2）作物の自然分類 （3）たねと発芽・たねまき	・作物の特性と栽培のしくみに関する基礎的なことを理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ・作物の特性と栽培のしくみについて多面的・科学的に考察し、想定される管理上の諸課題について整理し、解決に向け、創造的に解決している。 ・作物とその栽培に興味・関心を示し、その特性や管理、および生育に影響を及ぼす環境要因について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	第4章 栽培・飼育と環境のプロジェクト ・作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理について基礎的な内容を理解するとともに、関連する技術を身につける。 ・作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理に関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決する。 ・作物の特性や育成と環境要素、生育と環境要素、生産計画と工程管理について、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む。	第4章 栽培・飼育と環境のプロジェクト 1 農業と環境のプロジェクトの実際 （1）プロジェクトの課題設定と素材 （2）栽培と飼育に関するプロジェクトの実際 （3）環境に関するプロジェクトの実際 3 トウモロコシの栽培と利用 （3）栽培の実際 4 ダイズの栽培と利用 （1）ダイズとは （2）課題設定と栽培計画 （3）栽培の実際 6 トマトの栽培と利用 （1）トマトとは （2）課題設定と栽培計画 （3）栽培の実際 9 ジャガイモの栽培と利用 （1）ジャガイモとは （2）課題設定と栽培計画（3）栽培の実際 10 花壇用草花の栽培と利用 （1）草花とは （2）課題設定と栽培計画 （3）栽培の実際	・農業と環境に関するプロジェクト学習の意義、及び方法と進め方を理解している。 ・作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理について基礎的な内容を理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ・作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理に関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決している。 ・プロジェクト学習に必要な情報収集と分析について、主体的かつ協働的に取り組むもうとしている。 ・作物の特性や育成と環境要素、生育と環境要素、生産計画と工程管理について、自ら学び主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1

第1章 農業と環境を学ぶ ・ 農業と環境の学び方について理解しているとともに、関連する技術を身につけている。 ・ 農業と環境の学びに関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決する。 ・ 農業と環境の学び方について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	1 農業学習とは何か (1) 生物を育てる学習 (2) 環境を調べる学習 (3) 農業と環境のかかわり (4) 農業と環境について学ぶ大切さ	・ 農業学習について理解しているとともに、関連する技術を身につけている。 ・ 農業と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。 ・ 農業学習について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ・ 農業と環境の学び方について、自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	3
第3章 栽培と飼育の基礎 ・ 作物や家畜の特性や生育環境・管理に関する基礎的なことを理解するとともに、関連する技術を身につける。 ・ 作物栽培や家畜飼育とそれらの生育環境を多面的・科学的に考察し、想定される管理上の諸課題について整理し、解決に向け、創造的に解決する。 ・ 作物や家畜の特性や生育環境・管理に関する基礎的な知識を身につけさせるとともに、技術の仕組みを理解させる。	1 作物の特性と栽培のしくみ (4) 成長のしくみと管理	・ 作物の特性と栽培のしくみに関する基礎的なことを理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ・ 作物の特性と栽培のしくみについて多面的・科学的に考察し、想定される管理上の諸課題について整理し、解決に向け、創造的に解決している。 ・ 作物とその栽培に興味・関心を示し、その特性や管理、および生育に影響を及ぼす環境要因について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	4
第4章 栽培・飼育と環境のプロジェクト ・ 作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理について基礎的な内容を理解するとともに、関連する技術を身につける。 ・ 作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理に関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決する。 ・ 作物の特性や育成と環境要素、生育と環境要素、生産計画と工程管理について、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む。	3 トウモロコシの栽培と利用 (1) トウモロコシとは (2) 課題設定と栽培計画 (3) 栽培の実際 (4) トウモロコシの利用 4 ダイズの栽培と利用 (3) 栽培の実際 (4) ダイズの利用 5 スイカの栽培と利用 (1) スイカとは (2) 課題設定と栽培計画 (3) 栽培の実際 6 トマトの栽培と利用 (3) 栽培の実際 (4) トマトの利用 10 花壇用草花の栽培と利用 (3) 栽培の実際	・ 作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理について基礎的な内容を理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ・ 作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理に関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決している。 ・ 作物の特性や育成と環境要素、生育と環境要素、生産計画と工程管理について、自ら学び主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	20
定期考査			○	○		1
第3章 栽培と飼育の基礎 ・ 作物や家畜の特性や生育環境・管理に関する基礎的なことを理解するとともに、関連する技術を身につける。 ・ 作物栽培や家畜飼育とそれらの生育環境を多面的・科学的に考察し、想定される管理上の諸課題について整理し、解決に向け、創造的に解決する。 ・ 作物や家畜の特性や生育環境・管理に関する基礎的な知識を身につけさせるとともに、技術の仕組みを理解させる。	1 作物の特性と栽培のしくみ (5) 作物の繁殖と育種 (6) 作付体系と作型	・ 作物の特性と栽培のしくみに関する基礎的なことを理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ・ 作物の特性と栽培のしくみについて多面的・科学的に考察し、想定される管理上の諸課題について整理し、解決に向け、創造的に解決している。 ・ 作物とその栽培に興味・関心を示し、その特性や管理、および生育に影響を及ぼす環境要因について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	2
第4章 栽培・飼育と環境のプロジェクト ・ 作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理について基礎的な内容を理解するとともに、関連する技術を身につける。 ・ 作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理に関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決する。 ・ 作物の特性や育成と環境要素、生育と環境要素、生産計画と工程管理について、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む。	7 ハクサイの栽培と利用 (1) ハクサイとは (2) 課題設定と栽培計画 (3) 栽培の実際 8 ダイコンの栽培と利用 (1) ハクサイとは (2) 課題設定と栽培計画 (3) 栽培の実際 10 花壇用草花の栽培と利用 (3) 栽培の実際 2 イネの栽培と利用 (1) イネとは (2) 課題設定と栽培計画 (3) 栽培の実際	・ 作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理について基礎的な内容を理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ・ 作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理に関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決している。 ・ 作物の特性や育成と環境要素、生育と環境要素、生産計画と工程管理について、自ら学び主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	26
定期考査			○	○		1

第2章 私たちの暮らしと農業・農村 ・私たちの暮らしと農業・農村について理解するとともに、関連する技術を身につける。 ・私たちの暮らしと農業・農村に関する課題を発見し、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する。 ・私たちの暮らしと農業・農村について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。	1 人間と植物・動物とのかかわり (1) 太陽エネルギーを地球にとどめる植物 (2) 生物の生命活動のエネルギー (3) 生物の世界のつながり (4) とぎれることのない物質のつながり (5) 私たちを取りまく環境 (6) 森林の生態系の構造と働き (7) 水辺の生態系の構造と働き (8) 農耕地の生態系の構造と働き (9) 都市の生態系 (10) 身近な野生生物の保護	・人間と植物・動物のかかわりについて理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ・人間と植物・動物とのかかわりに関する課題を発見し、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決している。 ・人間と植物・動物とのかかわりについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	6
第3章 栽培と飼育の基礎 ・作物や家畜の特性や生育環境・管理に関する基礎的なことを理解するとともに、関連する技術を身につける。 ・作物栽培や家畜飼育とそれらの生育環境を多面的・科学的に考察し、想定される管理上の諸課題について整理し、解決に向け、創造的に解決する。 ・作物や家畜の特性や生育環境・管理に関する基礎的な知識を身につけさせるとともに、技術の仕組みを理解させる。	2 作物を取りまく環境とその管理 (1) 作物栽培と環境 (2) 作物の生育と大気環境 (3) 作物の生育を支える土 (4) 作物の養分と肥料 (5) 作物を取りまく生物	・作物を取りまく環境とその管理に関する基礎的なことを理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ・作物を取りまく環境とその管理について多面的・科学的に考察し、想定される諸課題について整理し、解決に向け、創造的に解決している。 ・作物を取りまく環境に興味・関心を示し、その特性や管理、および生育に影響を及ぼす環境要因について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	5
第4章 栽培・飼育と環境のプロジェクト ・作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理について基礎的な内容を理解するとともに、関連する技術を身につける。 ・作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理に関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決する。 ・作物の特性や育成と環境要素、生育と環境要素、生産計画と工程管理について、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む。	7 ハクサイの栽培と利用 (3) 栽培の実際 (4) ハクサイの利用 8 ダイコンの栽培と利用 (3) 栽培の実際 (4) ダイコンの利用 11 ニワトリ (1) ニワトリとは (2) 課題設定と飼育計画 (3) 飼育の実際 (4) 採卵鶏の飼育 (5) 病気と対策 (6) ニワトリの加工 13 コナラの利用と方法 (1) コナラとは (2) 課題設定 (3) 計画と実施 (4) コナラの利用 15 ガーデニングの利用と方法 (1) ガーデニングとは (2) 課題設定 (3) 計画と実施 (4) まとめと評価	・作物や家畜の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理について基礎的な内容を理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ・作物や家畜の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理に関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決している。 ・作物や家畜の特性や育成と環境要素、生育と環境要素、生産計画と工程管理について、自ら学び主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	16
定期考査			○	○		1
第2章 私たちの暮らしと農業・農村 ・私たちの暮らしと農業・農村について理解するとともに、関連する技術を身につける。 ・私たちの暮らしと農業・農村に関する課題を発見し、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する。 ・私たちの暮らしと農業・農村について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。	2 農業と食料供給 (1) 人間と農業 (2) 農業を支える自然環境 (3) 農業・技術と食料生産 (4) 農業・農村の姿 (5) 食料の流通・消費と食品産業 3 農業・農村の役割 (1) 食料の生産・供給機能 (2) 地域活性化の原動力 (3) 国土・環境保全機能 (4) 文化の形成と継承 (5) 介護・福祉・教育的機能 (6) 農村の価値創生 4 これからの社会と農業・農村 (1) 農業とエネルギー (2) これからの農業・農村 (3) 持続可能な農業の維持と発展 (4) 環境保全と農業 (5) 農業・農村を取りまく課題 (6) 都市と農村の共生と対流	・農業と食料供給について理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ・農業と農村について理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ・これからの社会と農業・農村について理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ・農業と食料供給に関する課題を発見し、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決している。 ・農業と農村に関する課題を発見し、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決している。 ・これからの社会と農業・農村に関する課題を発見し、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決している。 ・農業と食料供給について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ・農業と農村について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ・これからの社会と農業・農村について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	11

第3章 栽培と飼育の基礎 ・作物や家畜の特性や生育環境・管理に関する基礎的なことを理解するとともに、関連する技術を身につける。 ・作物栽培や家畜飼育とそれらの生育環境を多面的・科学的に考察し、想定される管理上の諸課題について整理し、解決に向け、創造的に解決する。 ・作物や家畜の特性や生育環境・管理に関する基礎的な知識を身につけさせるとともに、技術の仕組みを理解させる。	3 家畜の特性と飼育 (1) 家畜と飼育 (2) おもな家畜の一生と生産 (3) 家畜の成長と繁殖 (4) 家畜の飼料と栄養 (5) 飼育環境の管理と整備 (6) 家畜と人間の新たなかわり	・家畜とその飼育に関する基礎的なことを理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ・家畜とその飼育について多面的・科学的に考察し、想定される管理上の諸課題について整理し、解決に向け、創造的に解決している。 ・家畜とその飼育に興味・関心を示し、その特性や管理、および生育に影響を及ぼす環境要因について自ら学び、主体的かつ協働的に取組もうとしている。	○	○	○	2
第4章 栽培・飼育と環境のプロジェクト ・作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理について基礎的な内容を理解するとともに、関連する技術を身につける。 ・作物の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理に関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決する。 ・作物の特性や育成と環境要素、生育と環境要素、生産計画と工程管理について、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む。	9 ジャガイモの栽培と利用 (3) 栽培の実際 (4) ジャガイモの利用 1 1 ウシ (1) ウシとは (2) 課題設定と飼育計画 (3) 飼育の実際 (4) ウシの加工 1 4 間伐の方法と間伐材の利用 (1) 干ばつと間伐材 (2) 課題設定 (3) 計画と実施 (4) まとめと評価 1 6 壁面緑化と屋上緑化の方法と利用 (1) 壁面緑化と屋上緑化とは (2) 課題設定 (3) 計画と実施 (4) まとめと評価	・作物や家畜の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理について基礎的な内容を理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ・作物や家畜の特性や育成と環境要素、生産計画と工程管理に関する課題を発見し、科学的根拠に基づいて創造的に解決している。 ・作物や家畜の特性や育成と環境要素、生育と環境要素、生産計画と工程管理について、自ら学び主体的かつ協働的に取組もうとしている。	○	○	○	13
定期考査			○	○		1
						合計
						140

年間授業計画

三宅 高等学校 令和7年度（1学年用） 教科

家庭

科目 生産産業基礎

教科： 家庭

科目： 生産産業基礎

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 家政科

教科担当者： 糸井 義菜

使用教科書： （ 生産産業基礎 （実教出版）

教科 家庭

の目標：

【知識及び技能】

人間の将来にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭と社会の関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 生産産業基礎

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生産産業や関連する職業について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける。	生産産業や関連する職業に関する課題を発見し、生産産業を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	生産産業や関連する職業への関心を高め、適切な進路選択と専門性の向上を目指すして自ら学び、生産産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	意	配当 時数
1 学 期	A 生産産業基礎を学ぶに当たって 【知識及び技能】 職業人として働くことの社会的な意義や役割について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 生産産業を担う職業人として課題を発見し、その解決に向けて考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 生産産業への関心を高め、主体的かつ協働的に取り組む。	・働くことの社会的な意義や役割 ・職業人に求められる倫理観 ・産業構造の変化と課題・生活 ・産業の意義と役割	【知識・技能】 職業人として働くことの社会的な意義や役割について理解している。 【思考・判断・表現】 生産産業を担う職業人として課題を発見し、その解決に向けて考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 生産産業への関心を高め、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	○	○	○	4
	B ライフスタイルの変化と生産産業 【知識及び技能】 ライフスタイルの変化と生産産業について理解し、関連する技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 ライフスタイルの変化と生産産業について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 ライフスタイルの変化と生産産業について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。	・社会の変化とライフスタイルの多様化 ・生産産業の発展	【知識・技能】 社会の変化に伴い、ライフスタイルが多様化し、人々のニーズに対応して生産産業が発展していることについて理解し、関連する技術を身につけている。 【思考・判断・表現】 ライフスタイルの変化と生産産業について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ライフスタイルの変化と生産産業について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。	○	○	○	12
	C ライフスタイルの変化に対応した商品・サービスの提供 【知識及び技能】 消費者のニーズの把握と商品企画し、提供に必要なマネジメントの手法、関連法規の概要や趣旨を理解し、技術を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 消費者のニーズに対応した商品・サービスを開発し、提供するまでの過程における課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 ライフスタイルの変化に対応した商品・サービスの提供について自ら学び、生産産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む。	・消費者のニーズの把握 ・商品・サービスの開発及び販売、提供 ・関連法規	【知識・技能】 消費者のニーズを的確にとらえることの必要性和、商品企画し、提供していく上で必要なマネジメントの手法、関連法規の概要や趣旨を理解し、関連する技術を身につけている。 【思考・判断・表現】 消費者のニーズに対応した商品・サービスを開発し、提供するまでの過程における課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ライフスタイルの変化に対応した商品・サービスの提供について自ら学び、生産産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	○	○	○	10
	D 生産産業と職業 【知識及び技能】 食生活関連分野に関する産業の種類や特徴、関連する職業について理解し、関連する情報を収集・整理する。 【思考力、判断力、表現力等】 食生活関連分野の課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 食生活関連分野について自ら学び、生産産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む。	・食生活関連分野	【知識・技能】 食生活関連分野に関する産業の種類や特徴、関連する職業について理解し、関連する情報を収集・整理している。 【思考・判断・表現】 食生活関連分野の課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 食生活関連分野について自ら学び、生産産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	○	○	○	12
2 学 期	D 生産産業と職業 【知識及び技能】 衣生活関連分野に関する産業の種類や特徴、関連する職業について理解し、関連する情報を収集・整理する。 【思考力、判断力、表現力等】 衣生活関連分野の課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 衣生活関連分野について自ら学び、生産産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む。	・衣生活関連分野	【知識・技能】 衣生活関連分野に関する産業の種類や特徴、関連する職業について理解し、関連する情報を収集・整理している。 【思考・判断・表現】 衣生活関連分野の課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 衣生活関連分野について自ら学び、生産産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	○	○	○	8
	D 生産産業と職業 【知識及び技能】 住生活関連分野に関する産業の種類や特徴、関連する職業について理解し、関連する情報を収集・整理する。 【思考力、判断力、表現力等】 住生活関連分野の課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 住生活関連分野について自ら学び、生産産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む。	・住生活関連分野	【知識・技能】 住生活関連分野に関する産業の種類や特徴、関連する職業について理解し、関連する情報を収集・整理している。 【思考・判断・表現】 住生活関連分野の課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 住生活関連分野について自ら学び、生産産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	○	○	○	4
	D 生産産業と職業 【知識及び技能】 ヒューマンサービス関連分野に関する産業の種類や特徴、関連する職業について理解し、関連する情報を収集・整理する。 【思考力、判断力、表現力等】 ヒューマンサービス関連分野の課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 ヒューマンサービス関連分野について自ら学び、生産産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む。	・ヒューマンサービス関連分野	【知識・技能】 ヒューマンサービス関連分野に関する産業の種類や特徴、関連する職業について理解し、関連する情報を収集・整理している。 【思考・判断・表現】 ヒューマンサービス関連分野の課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ヒューマンサービス関連分野について自ら学び、生産産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	○	○	○	6
3 学 期	E 職業生活と自己実現 【知識及び技能】 生産産業に関わる職業人に求められる資質・能力、役割や責任、職業資格などについて理解し、関連する情報を収集・整理する。 【思考力、判断力、表現力等】 適切な進路選択と専門性の向上を目指す上での課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 職業生活と自己実現について自ら学び、生産産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む。	・職業選択と自己実現 ・社会の変化と職業選択 ・将来設計と進路計画	【知識・技能】 生産産業に関わる職業人に求められる資質・能力、役割や責任、職業資格などについて理解し、関連する情報を収集・整理している。 【思考・判断・表現】 適切な進路選択と専門性の向上を目指す上での課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 職業生活と自己実現について自ら学び、生産産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組んでいる。	○	○	○	14
							合計 70

三宅 高等学校令和7年度（1 学年用）教科

家庭 科目 家庭基礎

教 科： 家庭

科 目： 家庭基礎

単位数： 2 単位

対象学年組：第 1 学年 普通科・家政科

教科担当者：糸井蘭菜・山田祥吾

使用教科書：（図説 家庭基礎 （実教出版））

教科 家庭

の目標：

【知識及び技能】

人間の将来にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭基礎

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実の向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 「青年期の自立と家族・家庭」 【知識及び技能】 生涯発達の視点で青年期の課題を理解するとともに、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。	・PDCAサイクルののっとり生活設計について考える。 ・生活にはどのような場面で金銭が必要となるか考える。 ・青年期の生き方について自立の観点から学習する。 ・自己分析をすることで自分らしい生き方について考える。 ・生活を支える労働について学ぶ。 ・将来の職業選択について考える。 ・グラフを見ながら、生活時間について考え、男女の違いについて比較する。 ・これからの家庭生活や社会のあり方について、どのような改善が必要か考え、話し合う。 ・さまざまな家族形態について学ぶ。 ・世帯構成の変化について学習し、現代の家族の課題と支援について、事例をもとに考える。 ・家族に関する法律を知り、その理念や現在の動きについて学ぶ。	【知識・技能】 生涯発達の視点で青年期の課題を理解しているとともに、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深めている。 【思考・判断・表現】 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意思決定に基づき、責任をもって行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	10
	B 「子どもの生活と保育」 【知識及び技能】 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解するとともに、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子供の生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。	・青年期の健康が将来の生まれてくる子どもにつながっていることを知り、育てる力について学ぶ。 ・子どもの身体の成長について、大まかな流れと特徴を学ぶ。 ・発達の順序や、子どもの世界観について学ぶ。 ・人の発達において、保育や人のかかわりがいかに重要であるかを、事例をもとに考える。 ・子どものよい生活習慣はすこやかな成長を促すことや、子どもの健康管理や安全対策の重要性について学ぶ。 ・おもちゃや絵本などの児童文化財が子どもの発達や生活にどのような影響を及ぼすのかを考える。 ・子どもを生み育てる意義と人間形成の過程について考える。 ・これからの親子関係について、事例をもとに考える。 ・子育てにおける社会環境について考える。	【知識・技能】 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解しているとともに、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子供の生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	8

C「共生社会と福祉」 【知識及び技能】 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。	・介護保険制度について学習する。 ・これからの介護と課題について、事例を用いて考える。 ・福祉、ソーシャル・インクルージョンの考え方を学ぶ。 ・自助、互助、共助、公助の状況に応じたバランスを考える。 ・社会保障制度とその目的について学ぶ。 ・地域福祉の担い手を考え、助け合うことについて学ぶ。 ・ボランティア活動の必要性や意欲について、話し合いを通じて考える。	【知識・技能】 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。 【思考・判断・表現】 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	4
定期考査			○	○		1

2 学 期	D「食生活と健康」 【知識及び技能】 ・ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解するとともに、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付ける。 ・おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解するとともに、目的に応じた調理に必要な技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。	・食べることと健康のかかわり、現代の食生活の変化と問題点について学習する。 ・5大栄養素と水について学習し、からだとのつながりについて考える。 ・炭水化物の働きと、炭水化物を多く含む食品について学ぶ。 ・脂質の働きと、脂質を多く含む食品について学ぶ。 ・たんばく質の働きと、たんばく質を多く含む食品について学ぶ。 ・ビタミンの働きと、ビタミンを多く含む食品について学ぶ。 ・ミネラルの働きと、ミネラルを多く含む食品について学ぶ。 ・味に大きな影響を及ぼす調味料や香辛料、さまざまな加工食品について学ぶ。 ・食品の旬や選択する際のポイント、食品の品質表示について学ぶ。 ・食中毒の種類を学び、衛生的な管理に結びつける。また、食品添加物の使用の目的や安全性についても学ぶ。 ・調理の一連の流れを実践し、その理論やコツを学習する。	【知識・技能】 ・ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解しているとともに、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 ・おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解しているとともに、目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	14
	E「衣生活と健康」 【知識及び技能】 ・ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解するとともに、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができるようになる。 ・被服材料、被服構成及び被服衛生について理解するとともに、被服の計画・管理に必要な技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。	・人と衣服のかかわりや、衣服の機能について学習する。 ・快適で安全な衣服について学習する。 ・繊維の種類と特徴、糸や布について学習する。 ・衣類素材の性能や加工・改善について学習する。 ・衣服の入手から処分までの流れを学習する。 ・衣服の表示を見ながら、衣服購入のポイントについて考える。 ・洗濯の種類と方法、洗剤のはたらきについて学ぶ。 ・家庭での洗濯方法・保管の方法などについて学ぶ。 ・衣生活と資源・環境とのかかわり、また、環境に配慮した衣生活について学習する。 ・ファストファッションについて、事例を挙げながら話し合い、商品選択の際に心がけることを考える。	【知識・技能】 ・ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解しているとともに、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理ができる。 ・被服材料、被服構成及び被服衛生について理解しているとともに、被服の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	8
2 学 期	F「住生活と住環境」 【知識及び技能】 ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解するとともに、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、住生活と住環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。	・住まいの機能や文化、生活様式について学習する。 ・基本的な平面図の読み取り方を学習する。 ・生活行為に対応した様々な住空間について学習する。 ・住まいにおけるバリアフリーやユニバーサルデザインについて学習する。 ・ライフステージやライフスタイルに応じた住生活について学習する。 ・快適な室内環境について、日照・採光、通風・換気、騒音・しや音、冷暖房などの要素を学習する。 ・災害や家庭内事故とその対策について学習する。 ・長く住み継いでいくための方法について理解する。 ・環境に配慮した住まいや住環境にするための方法を理解する。	【知識・技能】 ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解しているとともに、適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関わりについて問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、住生活と住環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1

年間授業計画

三宅 高等学校 令和6年度（1学年用）教科 総合的な探求の時間 科目 人間と社会

教科： 総合的な探求の時間 科目： 人間と社会 単位数： 1 単位

対象学年組：第 1 学年 NK・F 組

教科担当者：（ NK・F組：山田祥吾、安井瑛奈 ）

使用教科書：（ 人間としての在り方生き方に関する教科「人間と社会」（東京都教育委員会） ）

教科 総合的な探求の時間 の目標：

【知識及び技能】色々な職業について調べることで、自分を見つめ、自分の生き方を考える。

【思考力、判断力、表現力等】三宅島の産業と歴史文化を知り、自分と島の未来について考える。

【学びに向かう力、人間性等】三宅島の現状を認識し、共同して三宅島の復興に取り組む態度を育て、郷土愛と奉仕の心を育む。

科目 人間と社会 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
「人間と社会」に関する基礎的な知識・意義を学び、私たちの生きる社会で求められる力を理解している。	「人間と社会」に関する学習の視点を身に付け、生きる上での課題を発見し、ワークシートにまとめることができる。	「人間と社会」に関して探究する姿勢を身に付け、を自ら課題を解決でき、主体的かつ協働的に取り組むもうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・「人間と社会」を学ぶ意義・方法について理解させる。また、「人間と社会」に対する興味・関心と意欲を持たせ、生きる上での課題を解決できるようにする。	序章 人間と社会 - 学習の視点を考える -	・「人間と社会」に関する基礎的な知識・意義を学び、方法と進め方を理解している。 ・「人間と社会」に関する学習の視点を身に付け、課題を発見し、ワークシートにまとめることができる。 ・「人間と社会」に関して自ら課題を解決でき、主体的かつ協働的に取り組むもうとしている。	○	○	○	2
	・働くことの意義と課題に関する基礎的な考え方を身に付けさせる。 ・働くことが社会に貢献することを理解し、どのように自分が成長するのかをレポートにより表現できるようにする。 ・「働くこと」についてグループディスカッションを行い、主体的に学ぶ意欲と態度を身に付けさせる。	第3章 働くことの意義	・働くことの意義を考え、高校生活を送る上で必要な意味を理解している。 ・働くことに関する学習の視点を身に付け、課題を発見し、ワークシートにまとめることができる。 ・働くことに関して自ら課題を解決でき、主体的かつ協働的に取り組むもうとしている。	○	○	○	4
	・学ぶことの意義と課題に関する基礎的な考え方を身に付けさせる。 ・学ぶことに関する諸課題を整理し、解決に向けた具体的な取組を考え、レポートや発表により表現できるようにする。 ・学習についてグループディスカッションを行い、主体的に学ぶ意欲と態度を身に付けさせる。	第2章 学ぶことの意義	・学ぶことの意義を考え、高校生活を送る上で必要な意味を理解している。 ・学ぶことに関する学習の視点を身に付け、課題を発見し、ワークシートにまとめることができる。 ・学ぶことに関して自ら課題を解決でき、主体的かつ協働的に取り組むもうとしている。	○	○	○	2
	・自助・共助・公助に関する基礎的な考え方を身に付けさせる。 ・人生のリスクについて、それを支える共助・公助にどのようなものがあるのかを理解し、レポートにより表現できるようにする。 ・疑似体験を通じ共助・公助の必要性や必要とされる方の施行を理解する。 ・ボランティア活動を通して、自ら課題を解決する。	第12章 支えあう社会	・「人生のリスク」やそれに伴う自助・共助・公助の必要性を学び理解している。 ・ボランティア活動を通じて、共助・公助を行う際にどのような心構えを求められているのかを考え、ワークシートにまとめることができる。 ・体験活動を通じて支え合う社会に関して自ら課題を解決でき、主体的かつ協働的に取り組むもうとしている。	○	○	○	11
2 学 期	・地域社会との関わりに関する基礎的な考え方を身に付けさせる。 ・地域社会で活動する人々について、活動例がどのようなものがあるのかを理解し、レポートにより表現できるようにする。 ・地域をめぐる状況において、比内手の確保など様々な問題を理解する。 ・児童・福祉・国際ボランティア活動を通して、自ら課題を解決する。	第13章 地域社会を築く	・地域社会とのかかわりや地域社会での活動例、現状を学び理解している。 ・体験活動を通じて、地域社会をめぐる現状を経験から考え、ワークシートにまとめることができる。 ・体験活動を通じて地域社会を築くためにはどのようにすればよいか、自ら課題を解決でき、主体的かつ協働的に取り組むもうとしている。	○	○	○	8
	・選択し、行動することに関する基礎的な考え方を身に付けさせる。 ・変化の激しい社会に直面していることを理解し、そのように自分が成長するのかをレポートにより表現できるようにする。 ・「決定と行動」についてグループディスカッションを行い、主体的に学ぶ意欲と態度を身に付けさせる。	第7章 選択し、行動する	・選択の方法や変化の激しい社会環境であることを学び、自分で方法を考え、判断することが求められていることを理解している。 ・選択し、行動することに関して自分自身を振り返り、課題を発見し、ワークシートにまとめることができる。 ・選択することや決定することに関して自ら課題を解決でき、主体的かつ協働的に取り組むもうとしている。	○	○	○	2

	・異文化やその背景に関する基礎的な考え方を身につけさせる。 ・外国人観光客の推移から、様々な習慣や文化を持つ人々たちの共生のあり方についてレポートにより表現できるようにする。 ・文化の多様性についてグループディスカッションを行い、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけさせる。	第16章 文化の多様性	・様々な文化を学び、文化ごとに背景を理解しているとともに、外国人との共生について理解している。 ・異文化について考え、異なる習慣・文化を持つ人々との共生に関する課題を発見し、ワークシートにまとめることができる。 ・様々な文化があることに関して議論し、自ら課題を解決でき、主体的かつ協働的に取り組むもうとしている。	○	○	○	2
3 学 期	・地域社会との関わりに関する基礎的な考え方を身につけさせる。 ・地域社会で活動する人々について、活動例がどのようなものがあるのかを理解し、レポートにより表現できるようにする。 ・地域をめぐる状況において、比内手の確保など様々な問題を理解する。 ・児童・福祉・国際ボランティア活動を通して、自ら課題を解決する。	第13章 地域社会を築く	・地域社会とのかかわりや地域社会での活動例、現状を学び理解している。 ・体験活動を通じて、地域社会をめぐる現状を経験から考え、ワークシートにまとめることができる。 ・体験活動を通じて地域社会を築くためにはどのようにすればよいか、自ら課題を解決でき、主体的かつ協働的に取り組むもうとしている。	○	○	○	2
	・学ぶことの意義と課題に関する基礎的な考え方を身につけさせる。 ・学ぶことに関する諸課題を整理し、解決に向けた具体的な取組を考え、レポートや発表により表現できるようにする。 ・学習についてグループディスカッションを行い、主体的に学ぶ意欲と態度を身につけさせる。	第2章 学ぶことの意義	・学ぶことの意義を考え、高校生活を送る上で必要な意味を理解している。 ・学ぶことに関する学習の視点を身に付け、課題を発見し、ワークシートにまとめることができる。 ・学ぶことに関して自ら課題を解決でき、主体的かつ協働的に取り組むもうとしている。	○	○	○	2
							合計
							35